

活動分野	ステップアップ講座		
タイトル	化石から見る千葉県の移り変わり		
実施日時	2022年2月17日(木) 19時15分～21時15分		
実施場所	オンライン(ZOOM)		
受講者	29名	F I C会員	30名(講師含む)

活動の内容

今回の講師は長嶺勝さん。テーマは「化石から見る千葉県の移り変わり」。

化石とは「地質時代の生物(古生物)の遺骸および古生物がつくった生活の痕跡。英語の語源はラテン語の fossilis(掘り出された)に由来し、生物の生存した時代に分ける。」とされ、①生物の体が残ったもの、②石に置き換わったもの、③岩石に残った印象、④生物が生活していた跡、の4種類がある。

また化石には示準化石(地層の堆積した時代の推定に役立つ化石・・・三葉虫、アンモナイトなど)と示相化石(地層が堆積した環境を推定するのに有効な化石・・・造礁サンゴ、微化石など)があり、そのような化石の発見により、地層の年代や当時の環境を知ることになる。

さて、「千葉県の石」があることをご存知だったろうか? 講師によれば、日本地質学会により岩石、鉱物、化石について県の石が認定されており、千葉県でいうと各々房州石、千葉石、木下貝層の貝化石群となっている。興味ある方は以下のURLを訪れてみてはどうだろうか。

[日本地質学会・県の石リスト\(確定版\)\(geosociety.jp\)](http://geosociety.jp)

地質時代を語る上でもう一つ必要なのが、地球誕生46億年を区分する先カンブリア時代時代から始まる地質時代。チバニアン(77万年前)は新生代第四紀更新世中期に該当する。因みに千葉県立中央博物館で、チバニアンを記念した地質時代が描かれたクリアフォルダーが購入できるとのこと。

さて、千葉県の移り変わりを化石から見るテーマ。一番古い地層が見られるのが銚子付近。千葉県最古の化石としてフズリナ、サンゴ、アンモナイトなどが産出されている。特にアンモナイトは、北海道と並び日本における二大産地に数えられる。産出した化石などから、銚子付近の地層は中生代ジュラ紀のもので、当時は比較的温暖な気候の浅い海であったことがわかっている。



アンモナイト：銚子層群

次に古いのが、南房総地域。三浦半島の葉山から連なる葉山一峰岡隆起帯がその中で一番古く、千葉県には珍しく多様な火成岩と変成岩が見られる。海洋底にあったものが約4,000万年前、新生代古第三紀始新世に隆起したものと考えられている。房総丘陵、安房丘陵、上総丘陵、下総台地は新生代の新第三紀(約2,300万年前)から第四紀の地層(1～260万年前)である。化石は浅い海に生息してものから、深い海に生息していたものまで多様性に富んでおり、海面が上昇したり、引いたりしていたことがうかがわれる。化石としては、干畑層の貝化石(オウムガイ、オキナエビスガイ、オオハネガイなど)、サンゴ、サメの歯、上総層のヒラツメガニや、オニフジツボ、クジラの骨などが発見されている。

千葉県を概観して、一番新しいのが古くは内海となっていた房総半島の中心部。木下貝層の貝化石群(約13万年前)が有名である。その他千葉県で化石が多く見られる場所として、館山と幕張海岸が紹介された。

最後に講師から。私有地にて許可なく化石を採取するのはご法度。また化石を拾ったら、場所を必ず記録しておくこと。

講師がいろいろ化石の見本を用意してくれていたが、オンライン研修の限界で実際に自分の目で見るができなかったのが残念ではあったが、講師の化石愛溢れる、濃密な時間であった。



木下貝層

(2016年11月地学同好会木下貝層巡検イベントより)